

# かけ橋

まだ見ぬ君へ…

まちがど

# ネットワーク

▽花の会の花壇は、いつも手入れが行き届いています



桜、タンポポ、チューリップ…。春です。さまざまな花が、その美しさを競い合うように咲き乱れ、道行く私たちの目を楽しませてくれます。今回は、市内を花でいっぱいにしてようと地道な活動を続けている「富士市花の会」を紹介しましょう。

## 富士市花の会

花の会の花壇は

市内に百七十六カ所

駅前や道路のわきの花壇は、いつも季節の花で色とりどり。とてもよく手入れされていると思いませんか。それらの多くが、花の会の皆さんの手入れによるものなんです。

花の会の皆さんが管理している花壇は、市内に百七十六カ所あり、各地区ごとで活動しています。会の設立は、昭和四十二年八月。当時の会員は七百六十四人でしたが、今では、約四千五百人の花を愛する仲間が力を合わせ、丹精込めて花を育てています。

きれいですね、の一言が

私たちの励み



神谷地区の皆さん

毎年行われている花壇コンクールは、花の会の活動の励みになっています。平成七年度の花壇コンクールで最優秀賞を獲得した「神谷駅前花壇」を管理している皆さんにお話を伺いました。

「去年の夏は、猛暑と異常乾燥だったので、毎日六十メートル離れた公園から汗水流して水を運びました。苦労も多かったけれど、我が子を育てるような気持ちで手入れをした結果、きれいな花を咲かせることができました。」

ある日、花壇を手入れしていると、電車をおりた一人の女性が『きれいですね』とうれしい一言。そして『病院通いが長いので、花を眺めていると心が和み、病氣も治ってしまおうような気がします。これからも頑張ってください』と優しく声をかけてくれました。これからも、花づくりを通して多くのひととの交流を深めていきたいです。

▽広見公園は、桜の名所の一つ



歩く健康づくり二万歩◎

## 伝法ふる里コース

今回の「歩く健康づくり二万歩」は、伝法ふる里コースを紹介いたします。

春の暖かな日差しを浴びながら、伝法公民館をスタート。伝法沢川西側の愛馬の碑を回って北上します。

まずは保寿寺へ立ち寄り、境内を一めぐり。静けさと木漏れ日が、妙に心を和ませます。

保寿寺から国道一三九号を渡り、虎御前の腰掛石へ。虎御前が曾我兄弟の死を聞き、崩れるように腰かけたという史跡の前を通ってさらに北上。そして岳陽中まで来たなら右へ折れて一路桜の名所、広見公園へ。

食べろ！ 見ろ！



春には桜が咲き乱れ、多くの人々が訪れる広見公園は「富士市」と同じ年の三十歳。現在急ピッチで整備が進んでいます。

広見公園から社会福祉センター、広見荘の前を過ぎ、畑の中の道をひたすら南下すると、「かんかん堂」と呼ばれる碑にたどり着きます。ここには松尾芭蕉も訪れたことがあり、一句残していったとか。

芭蕉気分です歩を進め、三日市の浅間さん（富知六所浅間神社）を回ると、ゴールまであとわずか。最後に、県東部最大の円墳、伊勢塚古墳のてっぺんから市内を見渡せば、コースを制覇した充実感が沸き上がってきますよ。